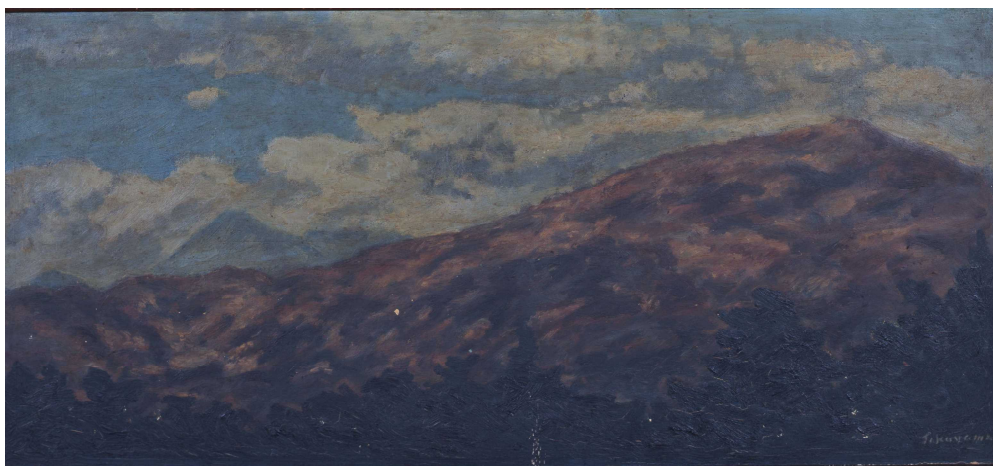


平成31年3月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



鷹山宇一 「八幡岳」 制作年不詳 1946年前後 板・油彩

「忘れえぬ人」

—この小学校4年の受持教師であった歌人青山哀囚の文学的な薫陶は今なお脳裏に残るのである。この教師に接することがなかったら恐らく私は別の道に進んでいたことであろうか。—

(2014年発行鷹山宇一画集「ふるさとを描く」から抜粋)

当時、鈴木三重吉が主宰する童話童謡雑誌「赤い鳥」が発刊されるたび、この担任は夜行列車を利用し買い求め、七戸の子ども達に与えていた。多感な少年少女の心にはどのように残ったことか。

父宇一は三人の娘たちに「赤い鳥」より名前をつけた。長女「ひばり」は晩翠の「ひばり」、二女「ちどり」は啄木の「鉏路の海」、三女「くるみ」は三重吉の「くるみの歌」から。父親として大切な娘に最初の贈物を授けた。

通学定期を求める時「芸名ではなく本名を」と言われる以外さほど不便を感じることはなかったが、現在のキラキラネームと違い七十年近く前の事なので、かなり三人の名前は目を引いた。しかし、仲間と共に担任に連れられた八幡岳や牧場で「赤い鳥」の詩歌を暗唱したことを、目を輝かせて話をする父を見て私は自分の名前に誇りを持った。静ひつな作品や詩的な画題を見るたび、名伯楽に出会った父たちの人生を考える。

父が生涯この担任を想ったように、哀囚を岳父にもつ青山浄晃元財団理事長を私は決して忘れない。

(文中敬称略)

館長 鷹山 ひばり

2019 年度予定している
展覧会をご紹介します。

あいおいニッセイ同和損保コレクション
時を超えても花ひらく
椿は TSUBAKI

4 / 27 (土) ~ 7 / 28 (日)

本展覧会は、「あいおいニッセイ同和損保コレクション」から、日本画、洋画、工芸各界を代表する芸術家たちにより多彩に表現された「椿絵」等60点をご紹介します。

尾形光琳、横山大観、岸田劉生、北大路魯山人など日本を代表する芸術家たちの作品を、目の当たりにできる大変貴重な機会です。今も昔も、その



堀文字《椿之図》

美しい姿で、私たち日本人の心を魅了し続

ける「椿」の魅力を存分にご堪能いただければ幸いです。



横山大観《雪旦》

時を超えても花ひらく 椿は TSUBAKI Information

■会期■4月27日(土)~7月28日(日)

※会期中無休(但し6月10日特別内覧会)

■入館料■一般900(720)円、高校・大学400円、小・中学生200(160)円

※()内は20名以上の団体、県民カレッジ受講者割引料金

■イベント■7月13日(土)17:00~(入館料のみでどなたでもご参加いただけます。)

三村三千代氏(八戸学院大学短期大学部客員教授)による特別記念講演会

模型のタミヤがやってきた2

8 / 10 (土) ~ 9 / 8 (日)

本展は平成29年度に開催された「模型のタミヤがやってきた！」展に続く第2弾です。プラモデル・ラジオコントロールモデル・ミニ四駆・ジオラマの展示に加え、今回は(株)タミヤが所蔵するレーシングカー「タイレル」の実車を展示します。F1グランプリで唯一レースを走った6輪車です。

(株)タミヤは国内のみならず、海外にも多くのファンを持つ、日本を代表する模型メーカーです。その魅力は今もなお多くのファンを生み続けています。

宇一が描いた蝶

9 / 22 (日) ~ 11 / 4 (月)

「花と蝶を描く画家」として知られる鷹山宇一ですが、描かれた蝶が実在していたという事実はあまり知られていません。鷹山が描く蝶は決して架空のものではありません。本物の蝶を観察したり、時には図鑑や雑誌を見たり、あらゆる角度から蝶の姿を正確に切り取り描き続けました。

本展では、鷹山宇一の作品に描かれ

た蝶に焦点を当て、鷹山作品と蝶の標本を展示することで、鷹山が描く蝶を検証します。

第19回鷹山賞児童作品展 第19回地球環境世界児童画

コンテスト優秀作品展

11 / 17 (日) ~ 1 / 19 (日)

郷土の画家・鷹山宇一を顕彰し、「子どもの感性は風土の中で培われる」との精神の下、県内の小中学校児童生徒に作品を公募する「鷹山賞児童作品展」から、入賞・入選作品を展示します。また、併催として、財団法人日本品質保証機構、国際認証機関ネットワーク3が主催する、世界各国の子どもたちに地球環境をテーマに作品を公募した絵画コンテストから、優秀作品をご紹介します。

第79回国際写真サロン展

3 / 8 (日) ~ 3 / 22 (日)

写真表現の可能性に挑戦し、プロ・アマ、国内外を問わず応募できる全日本写真連盟主催の写真コンテストから入賞・入選作品をご紹介します。

30年度を振り返って

今年度も展覧会を通して様々な出会いがありました。ご来館くださった全ての皆様に感謝申し上げます。

今年度の展覧会をいっきに振り返ります。4月「さくら・桜・花しょうぶ」成川美術館コレクション」。成

川美術館様から「桜」・「花しょうぶ」を描いた作品を中心にお借りし、展示させていただきました。過去にも何度か開催している本展覧会は、多くのお客様のご要望にお答えして再び企画いたしました。7月

「漫画界のレジェンド 松本零士展」。国内にとどまらず、世界各国で愛される漫画家・松本零士先生のデビュー当時から、現在に至るまでの足跡をマンガ原稿や多くの資料を交えてご紹介しました。会期中には松本先生のサイン会を開催。サイン会に参加できるのは限定100名ということもあり、当日



は朝から長蛇の列！先頭の方は前日の夜から並んでいました。これには私たちスタッフもびっくり！一人一人に丁寧にサインを書いて、握手をしている先生の姿が印象に残りました。9月「宇一が描いた蝶」。絵画と昆虫のコラボという今までにない企画で、私たちも試行錯誤で取り組みました。鷹山先生が描く蝶が本物の蝶だったという発見から生まれたこの企画。来年度は更にパワーアップして開催する予定です。11月「第19回鷹山賞児童作品展」藤谷芳雄の世界展」。本年度も県内各地の小・中学校から584点の応募がありました。子ども達の素直な心と目を通して描かれた作品には、毎回驚かされます。併催の藤谷芳雄の世界展は、



日本板画院委員、日本板画院青森県支部長の藤谷芳雄先生の版画作品を展示しました。特に宮沢賢治の世界をイメージして制作された作品は、その幻想的な世界に引き込まれるようで、



ご覧になったお客様からは、「感動し

た」と言う声がたくさん聞こえてきました。そして2月「第78回国際写真サロン展」。120点もの海外・国内の写真を展示しました。本年度も盛りだくさんの1年でした。



来年度は「美術館開館25周年」を迎えます！スタッフ一同さらに気合いを入れて、美術館の記念すべき年を盛り上げていきたいと思っております。来年度も、皆様のご来館をお待ちしております。

現在開催中の展覧会

青森県立郷土館連携展

「馬との暮らし」

4 / 14 (日) まで開催

本展は、青森県立郷土館収蔵資料から、農耕、信仰、芸能など、馬に関する民俗資料を厳選して展示します。



開館25周年記念企画「宇一が描いた蝶」展の一環として「蝶」をテーマに蝶の採集から標本作りなど、様々な活動を行います。

- 対象・・・10歳以上。蝶に興味がある方。
- 活動内容

【蝶の採集】・・・七戸町には全国でも珍しい「白化型」の「ウスバシロチョウ」が生息しています。そのウスバシロチョウ採集に行きます。

【標本作り】・・・採集した蝶で標本作りを行います。作った標本は、9月の展覧会時に展示します。

【蝶の観察】・・・幼虫から成虫になるまでを観察し、記録していきます。

まずは会員登録！登録してくださった方に今後のスケジュールをお知らせします。お気軽に美術館までお問合せ下さい。



ちようちよくらぶ
会員募集中！

美術館開館25周年
「宇一が描いた蝶」展特別企画



平成30年度 鷹山手一記念美術館
美術館めぐらび
「七宝焼を体験しよう」



1月20日(日)は、「七宝焼を体験しよう」です。
毎年人気の七宝焼、今回は丸い形のペンダントと蝶の形のブローチです。丸の形は自由に釉薬を乗せていきます。

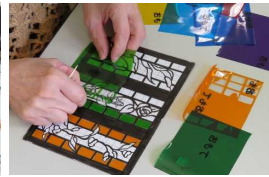


不透明釉薬と透明釉薬の融点の差によりおこる技法のことです。不透明釉薬が伸び、透明釉薬が縮むこと

から吹き出したような模様が現れます。不透明の白い釉薬を焼き付け、その上に透明な釉薬を薄めに乗せます。高い温度で蝶を焼成し、次は温度を下げて丸い形を焼成しました。「噴釉」で出来た模様が本物の蝶の模様のように浮かび上がりました。



平成30年度 鷹山手一記念美術館
美術館めぐらび
「ステンドグラスを作ろう」



2月24日(日)は「ステンドグラスを作ろう」です。初めて行うワークショップです。ガラスを使わないステンドグラスを楽しみました。使用した教材は「ブッシュステンド」です。



透明板の裏面の黒剥離紙を切り絵の要領で輪郭を残し切つてめくると粘着面になります。そこに専用のカラーセロハンを押し当てることで色が転写します。今回の図案はランプ館の天井にあるステンドグラスがモチーフです。輪郭部の切り込みまでは美術館スタッフで作業し、参加された皆さんには、色づけを体験してもらいました。同じデザインなのに色合いが異なると、雰囲気は全然違う作品に仕上がりました。来年も再チャレンジしたいと声もいただきました。



平成30年度 鷹山手一記念美術館
美術館めぐらび
「デコパージュをしよう」



3月10日(日)は「デコパージュをしよう」です。デコパージュは専用の糊でペーパーナプキンを切り貼りして最後に同じ糊でコーティングします。今回はバッグとバッグに付けるストラップです。最初にストラップを作ります。四角い発泡スチロールにデコパージュします。サイズは約2センチ角のサイコロ状のため、細かい作業になりました。その後、UVレジンで硬化します。硬化している間にバッグをデコパージュします。作業する面が、ストラップの小さな面からバッグの大きな面になると、作業がスムーズに進みました。ストラップは初めてでしたが、レジンで硬化したことによって、しわやたわみも気になることなくきれいに仕上がりました。バッグとセットで持ち歩くのが楽しくなる作品に仕上がりました。



天間西児童センター父母会／「デコパージュをしよう」

1月19日(土) 美術館に天間西児童センター父母会の皆さんがご来館下さいました。2階工房で行いました「デコパージュをしよう」の様子です。



平成30年度の美術館めぐらびも無事終了しました。参加していただきました皆さまありがとうございました。来年度もいろいろなワークショップを企画しております。皆様のご参加をお待ちしております。

教育普及員／織川 孝子



美術館日誌

◆ 1月 ◆

▼ 1日(火) 2日(水) 年始休館

▼ 8日(火) 館内光回線工事

▼ 12日(土) 七彩会

▼ 18日(金) 三戸町大舌町内会婦人部 14名来館

▼ 19日(土) 七戸町立天間児童センター父母会 ワークショップ 「デコパージュ」

(織川/2階工房)

友の会新年会

(杉屋敷 奥山)

▼ 20日(日) ワークショップ 「七宝焼き」 (織川/2階)

▼ 22日(火) 鷹山賞児童画作品展最終日

▼ 29日(火) エアコン設置の下見 (生涯学習課)

▼ 30日(水) 予算打合せ (生涯学習課)

▼ 31日(木) 三村三代氏出版記念祝賀会出席 (理事長/青森)

◆ 2月 ◆

▼ 5日(火) 6日(水) 国際写真サロン 展展示作業

▼ 5日(火) 自動ドア点検 (ナブコシステム)

▼ 6日(水) 国際写真サロン展 看板取付

藤谷芳雄先生作品搬出 (青森スタジオ)



▲国際写真サロン展作品陳列中



▲審査委員特別賞 「RURAL GIRL」

▼ 10日(日) 国際写真サロン展開催

▼ 17日(日) 七彩会

▼ 23日(土) 椿展打合せ (あいおい損保/反町野地・館長・遠藤)

▼ 24日(日) 天皇陛下御在位三十年 慶祝事業の為無料開館

ワークショップ 「ステンドグラス」

(織川/2階工房)

▼ 25日(月) 応接室前窓際の除雪 (シルバー人材派遣)

▼ 27日(水) 絵馬懇談会準備

▼ 28日(木) 絵馬懇談会

見町観音堂・小田子不動堂 (生涯学習課・館長・常務理事・遠藤)

◆ 3月 ◆

▼ 6日(水) 理事会事前三役会 (理事長・常務理事・館長)

▼ 9日(土) (公財) 鷹山宇一記念美術振興会 理事会

▼ 10日(日) ワークショップ 「デコパージュ」 (織川/2階工房)

国際写真サロン展作品撤去 (フोटオ七戸)

▼ 12日(火) 青森県立郷土館連携展 作品搬入・展示作業 (天原圭存学芸主査・小山圭存学芸主査・増田学芸主査/青森県立郷土館)



▲県立郷土館との連携展 「馬とのくらし」 展示風景

▼ 13日(水) 青森県立郷土館連携展 展示作業・看板取付 (青森スタジオ)

▼ 16日(土) 上北自動車道・上北天間林道開通式出席 (理事長)

▼ 16日(土) 七彩会

▼ 17日(日) 青森県立郷土館連携展 「馬とのくらし」 開催



▲連携展「馬との暮らし」 青森県立郷土館所蔵品の数々 (スペイン民芸資料館)



▲馬を描く画家 「上泉 華陽」

▼ 22日(金) 学芸員研修 (遠藤/国立近代美術館)

▼ 23日(土) (公財) 鷹山宇一記念美術振興会 評議員会

▼ 30日(土) 友の会会報発送作業

▼ 31日(日) 友の会海外研修旅行説明会 感動の旅中欧3ヶ国 周遊8日間説明会



▲3月3日雛祭り 雛人形展示 作: 名久井 十九三

女神像「みちびきの像」を訪ねて

八戸市 照井壽一

何時かは見たいと思っていた女神像「みちびきの像」(制作・吉野毅)でしたが願いかなって、本年3月3日から2泊3日の予定で像が設置されている神奈川県横浜市みなとみらい21地区を訪ねる機会に恵まれました。

横浜市を訪れるのは、東京港方面と横浜港を結び、都市部の交通渋滞を緩和するために建設された「横浜ベイブリッジ」が開通した1989年(平成元年)に職場の同僚と一緒に見学にきたときでしたので三十年ぶりの訪問となりました。調べたところ、女神像が設置されているヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル開業は、1991年(平成3年)8月、地区の中核をなす70階建て、高さ296.33mの超



高層ビル・横浜ランドマークタワー開業は、1993年(平成5年)7



月なのだそうですから、私が横浜ベイブリッジを見学を訪れたときに見た横浜港は、開業が始められたばかりだったのでしょうが、それでもその規模の大きさに圧倒され、「すごいなあ」と、ただ感心するだけだったことを覚えています。

現在、みなとみらい21地区は開発ブーム期にあり、桜木町駅周辺と新港地区を結び、日本初の都市部を運行するロープウェイ建設計画が東京2020オリンピック・パラリンピックまでの営業開始を目標に進められるなど、建設中、計画中の建造物が数多くあり、まだまだ発展途上にあるようです。

女神像は、「風をはらんだヨットの帆」の形を模したという外観が特徴的なヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル(地下1階、地上31階、高さ140メートル)の最上部に設置されているので、国際橋を渡り、カプヌードルミュージアムの海側から小雨の中で撮影した写真が上段と右側の写真です。

横浜みなとみらい21公式ウェブサイトに等によれば、この像は、安全な航海を祈願し、多くの船舶の先端に飾られた女神像をイメージし

たもので「みちびき」と名付けられ、横浜市の飛翔と世界の平和を願い、ホテル開業時に設置された「像の前で願いを唱えると叶えてくれる」、「正面から拝むと恋愛が成就する」などの都市伝説があるそうです。



右下の写真は、海上で保存されている帆船としてはわが国初の重要文化財指定となった帆船日本丸です。帆船日本丸は、昭和59年、船員養成の任務を「新日本丸」に引き、その後、横浜、神戸、大阪など10都市からの誘致要請がありましたが、横浜市の活用計画と約83万人の署名により誘致都市が横浜市に決定、1985年(昭和60年)4月からみなとみらい21地区の石造りドックに現役当時のまま保存し、一般公開されています。

残念ながら本年3月下旬迄の予定で修繕工事中だったため、二度目の見学は出来ませんでした。20年ぶりにドック内の海水をすべて排水して行っているという大規模修繕工事の最終段階を目の当たりに見

女神像「みちびきの像」基本情報

作家名：吉野 毅(Takeshi Yoshino)
 作品名：女神像(みちびきの像)
 制作年：1991年
 材質：ブロンズ
 サイズ：H4m(原型H100×W28×D60cm)
 設置場所：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルの最上部に設置(1Fロビーに原型展示)

◎参考資料

横浜市ホームページ、横浜みなとみらい21公式ウェブページ、パンフレット他

ることが出来たことは、貴重な機会に巡りあえたと思っています。そのほか、カプヌードルミュージアムでは、今話題のNHK連続テレビ小説「まんぷく」のヒロイン・立花福子のモデルとなった安藤仁子(あんどうまさこ)の特別企画展「チキンラーメンの女房」を見て即席麵の歴史を学び、横浜美術館では「イサム・ノグチと長谷川三郎」変わるものと変わらざるもの」展を鑑賞して、3月5日朝、「みちびきの像」を訪ねる旅を終え、JR桜木町駅から電車に乗車、東京駅8時40分発はやぶさ7号で帰宅しました。

画集を携えて

part IV

八戸市 照井壽一



西野橋から八幡岳を望む(撮影:H30. 8. 23)

八戸市に転居してからも相変わらず、古里の山・八幡岳の裾野を画集とカメラを携えながらその時々、足の向くまま、気の向くままに散策し、春一番のフキノトウやウド、タラの芽、ゼンマイ、ワラビ、夏はミズ(ウワバミソウ)、秋はイクジ、カックイ、ハツタケなどキノコ類に加えてクリ、アケビ、ヤマブドウなどを採取し、四季折々の旬の山の幸を楽しんでいます。昨年8月下旬から健康維持のためのウォーキングが加わりました。

掲載されている「ふるさとを描く」と題した鷹山画伯の「…前略。七戸は十和田湖に四里、小川原湖に三里、青森県を縦走する八甲田山群の高田大岳のすそ野はるかに開けた小盆地に位置し、…後略。」という文章を読み、「七戸近郊・八幡岳」(カラー図番、No.194、制作年不詳、1950年代)と題した作品に描かれている風景を探そうと思いつき、8月下旬に七戸町に出かけ、奥羽牧場や七戸中学校周辺、鍛冶林、高屋敷、西野地内からの八幡岳の風景を数日間かけて探しながら歩き回ったことでした。

結果的には風景を特定することは出来ませんでした。探したいがために川岸や農道をここでもない、あそこでもないかと歩いているうちに、汗をかき、この爽快感と遠くに見えていた地点まで自分の足で歩くことが出来たという達成感がウォーキングを生活に取り入れるきっかけとなりました。

もしも画集に「ふるさとを描く」と題した文章と「七戸近郊・八幡岳」と題した作品がなかったらウォーキングに目覚めることはなかったでしょうから、鷹山画伯に感謝しています。

上段の写真は、ウォーキングを生活に取り入れるきっかけとなった西野橋(せいのぼし)から撮影した八幡岳方面の風景ですが、ここから農道を山屋地内に向かって踏み出した一歩がウォーキングを始める原点になるとは、考えてもいませんでした。

季節は既に春、今年も、おにぎりや水筒を持って旬の山菜採りと画集の風景を探しながら七戸近郊の散策を精一杯楽しみたいと古里の山・八幡岳の雪解けを今から心待ちにしています。

新規会員入会お誘いのお願いと

友の会会員登録更新のお願い

平成30年度も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とお力添えをいただき、誠に有り難う御座います。新年度も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んでいただけただけの研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。

尚、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っておりますので、会員各位の特段のご協力をお願い致します。

○友の会の事業内容

- ① 県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ② 海外美術館研修旅行
- ③ 美術館作品購入基金への協力
- ④ 鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤ 会報の発行
- ⑥ その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

年会費 3千円
 特典 ① 無料入館券3枚、会員証提示により入館料2割引
 ② ミュージアムグッズ1割引

○特別会員

年会費 1万円
 特典 I 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
 II 新規加入の方に画集1冊贈呈
 ③ 研修会、講演会への招待、優待
 ④ 他美術館等の視察研修への優待参加
 ⑤ 会報の配布

○賛助会員

年会費 2万円
 特典 I 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
 II 新規加入の方に画集1冊贈呈

◇ 詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

書籍のご案内

★新「鷹山宇一画集」
 一冊二千円
 十消費税



◎お問合せ先
 鷹山宇一記念美術館

編集後記

会報第94号をお届けします。平成最後の年度も会報編集に当たり、皆様のご理解とご支援を頂き誠に有難う御座いました。新年度におきましても、旅行記、紀行文等、会報作成へのご協力と新会員入会を宜しくお願ひ申し上げます。照井壽一